

令和5年度（2023年度）第1回
箕面市立図書館協議会会議録

箕面市立図書館

1 日 時 令和5年(2023年)12月12日(火)
開会 午前10時 閉会 午前11時30分

2 場 所 箕面市立中央図書館 2階 視聴覚室

3 出席委員

渡邊	智山	会長
日根	真理	副会長
山下	純	委員
高野	俊子	委員
田中	紗里奈	委員
野本	淳子	委員
森	美由紀	委員
増田	友美	委員
伊藤	美保	委員

4 傍聴者の有無 なし

5 出席職員

大迫	美恵子	中央図書館長
岡野	真須実	東図書館長
巢組	裕子	桜ヶ丘図書館長
高橋	浩志	西南図書館長
小松	紀子	小野原図書館長
前川	敦子	船場図書館長
坂上	未希	中央図書館室長補佐
渡部	笑歩	中央図書館職員

6 議事日程

日程第1(案件第1号)

令和5年度実施事業について

→令和5年度に実施した事業について各館館長より説明。

意見交換

日程第2(案件第2号)

令和4年度事業概要について

→令和4年度箕面市立図書館の事業概要について

令和5年度(2023年度)版「箕面市立図書館概要」に沿って説明。

日程第3（案件第3号）

その他

【会議次第】

議 長： 　ただ今から、令和5年度第1回箕面市立図書館協議会を開催する。
　会長及び副会長が選出されるまで、箕面市立図書館協議会運営規則第2条第2項に基づき中央図書館長が議長を行う。

事務局より委員の出席状況報告。箕面市立図書館協議会運営規則第2条第3項により協議会が成立している旨確認。

（机上にて辞令交付）

（協議会委員、職員の自己紹介）

事務局より箕面市図書館協議会設置条例第5条に基づき、会長及び副会長は委員の互選により選出する旨を説明。

議 長： 　今の説明に対してご意見、ご質問等はないか。

委 員： 　渡邊委員に会長を、日根委員に副会長を引き続きお願いしたい。

議 長： 　会長に渡邊委員、副会長に日根委員を選出いたしてよろしいか。

（一同異議無し）

議 長： 　箕面市立図書館協議会運営規則第2条に基づき、これより議長を会長にお願いする。

日程第1（案件第1号）

令和5年度実施事業について

事務局より各館ごとに令和5年度に実施した事業について説明。

会 長： 　今の説明に対して、ご質問やご要望はないか。

委 員： 　前任の委員から引き継いでいる件だが、船場図書館は他の図書館と運営方法が異なるのではないか。学校への貸出に時間がかかり、取り寄せができない本があると聞いている。当校には中国にルーツのある子どもがおり日本語の本を読むことが難しい子どももたくさんいる。外国語の本は学校図書館では不足しており、公共図書館の蔵書を取り寄せている。特に船場図書館には外国語の本が多い。

船場図書館も、学校に貸出しやすい環境を整えてほしい。

事務局： 前回の協議会でもご意見をいただいた。船場図書館には、箕面市の蔵書と大阪大学の蔵書がある。箕面市の蔵書については、他館と同じく学校図書館から予約された図書を配本している。前回の協議会で、大阪大学の蔵書に外国語の資料が多いため、その本も箕面市の蔵書と同様に取り寄せができるようにしてほしいというご意見をいただいた。船場図書館では、箕面市と大阪大学の蔵書を異なる図書館システムで運営している。学校司書からも大阪大学の蔵書貸出の要望があり、こちらも大阪大学の蔵書を学校に提供したいと考えているが、運用を整理し、お互いに安心してやりとりできる仕組みを作っていこうと検討しているところである。

大阪大学は今年度、箕面キャンパスに大阪大学大学院人文学研究科附属複言語・複文化共存社会研究センター（通称「阪大ふくふくセンター」）を設立し、外国にルーツのある子どもを支援する取り組みを積極的に行っている。資料をスムーズに提供する仕組みも作っていききたい。

会 長： 船場図書館が大阪大学に運営をお願いするのは何年目か。

事務局： 現在、開館してから3年目である。

まだシステムの課題があり調整中だが、外国語図書の提供については、前向きに取り組み、提供していききたいと考えている。

委 員： 映画「ジョゼと虎と魚たち」の特別撮影会は、定員120名のところ78名の参加であり、参加人数が意外に少ない印象がある。広報やPRをどのような形で実施したのか。

また、船場図書館の講座「読みたい本を探そうー図書館員の検索術ー」は、中学生以上30名の定員に達したのか、どのような参加状況だったか。

事務局： 「ジョゼと虎と魚たち」のイベントは、映画上映のPRは8月から開始した。撮影会の募集は10月から申込を受付した。参加希望者数の見当がつかなかったため、実際の想定参加者数より多めの120名という人数設定をした。あらかじめの申込が定員に達しなかったため、当日参加も受け付けた。

PRに関しては、上映するメイプルホールのホームページや、図書館のホームページ、市の広報紙、学校図書館、市の公式ツイッターを利用した。映画の監督が自身の公式ツイッターで告知してくれていたため、この映画のファンには周知できたと思う。箕面市のかたが興味を持ってくれるような取り組みがやや不足していたことは反省点である。上映会の直前に、中央図書館がこの映画の舞台となっていたことがわかるように、図書館内で映画のシーンのパネルを展示した。展示は市民の方が足を止め、よく見ていただいていたが、期間が短かったので、長期間展示していれば、もう少し興味をもつ人が増えたと思う。

船場図書館の生涯学習講座の参加者は、中学生以上としているが、実施時間が平日の昼間だったため、年齢が高めの方が多かった。夏休みの8月はより若い方が参加されていた印象があった。

委員： 改めてたくさんの行事を紹介していただいたが、一つのイベントを毎年つくるのは大変だと思う。地域の大学を活かした取り組みがあることも、改めて良かったと思う。「孫が他県に住んでいるが、日曜に連れて行く場がなく、イベントを探してワークショップを訪ねて連れて行くことも多い」という声も聞いた。決して大人数が集まるわけでもなく、地道に毎回イベントが開催されるのありがたい。中央図書館のホワイトボードに「ジョゼと虎と魚たち」のイベントの感想が書かれてあったのも良かった。

会長： 様々なイベントが、子どもから生涯学習まで幅広く実施されている点は非常に評価できる。先程触れられたように夏休みには子ども用イベントを実施するなど、タイミングが重要だと思う。もちろんイベント実施については講師にお願いするタイミングがあるので、学校が休みの時期以外にイベントが集中してしまうこともあるが、時期の調整ができれば、より良いものになるのではないか。

委員： 私は、子どもが小さい頃から、時間がある限りこういったイベントに参加したいと考えていた。西南図書館の近くに住んでいるので、イベント関連の情報はtomoLinksで告知されていると思うが、知らなかった。学校からの案内は、校区内外で違いはあるのか。

事務局： 学校向けのチラシについては、全校向けにするものと図書館が立地する校区に限定して配布するものはある。市の広報紙「もみじだより」にはできるだけ掲載するようにしている。校区外の小学生以下はイベントの参加に保護者同伴をお願いすることもあり、イベントの規模も考え、PR方法は図書館でも迷うところである。学校へのチラシの配布についても、どの程度までお願いするか迷っている。

委員： 学校の現状で言うと、紙ではなくtomoLinksのデータ提供のみになると、たくさんの量の学校からのお知らせや、市、地域からのお知らせがあるので、逆に見ていただけないこともあると思う。どこまで電子とするかは難しいと思う。学校で配布はできるが、もみじだよりに掲載されているのであれば、そちらをご覧いただくのがよいのではないか。

会長： このPR方法についての議論は常にある。利用方法の伝え方は本当に難しい。学校は色々なところから資料が来るため、どうしても現場のほうで取捨選択せざるを得ない。電子化の流れもあって、見やすさもあるが、重要な情報は紙で渡さないと伝達できないという意見もある。その都度考える必要がある。

委員： 私の家もこういうイベントに参加したいほうで、色々アンテナを張ってはいるが、今回説明された中には知らなかったイベントがたくさんあった。個人的な

感想にはなるが、どちらかというところ「見る」「聞く」のイベントが割合としては多い印象がある。子どもが乳幼児の時は読み聞かせなど、「見る」「聞く」のイベントのほうが、親としても参加しやすく、子どもも楽しめていた印象があるが、年齢を重ねるにつれて「見る」「聞く」だけでなく、やりたいという希望が出てくる。「見る」「聞く」のイベントも魅力的だが、実際に子どもが参加して遊べることや、ものづくりなど自分の手を動かし、感性を働かせることができるイベントの割合が増えたら嬉しい。

会 長： より参加型のイベントを希望ということだが、検討はしているか。

事務局： 参加型のイベントは、主に西南図書館が中心となって増やしていこうとしているところである。

委 員： 池田市の五月山児童文化センターでは、費用はかかるが、手芸、編み物、簡単な工作など、小さな子どもでも補助をしてもらい、何かを作り上げ、満足感が得られるような良いイベントが開催されており、参加している。そのようなイベントが箕面市でも増えたらよいと思う。

事務局： 小学生対象のイベントであれば、開催されているのは土曜日や日曜日か。

委 員： 土日がメインで開催されている。

会 長： 検討をお願いしたい。

委 員： このようにたくさんイベントがあるとは思っていなかったのでも、また参加させていただきたい。友人から、茨木市の図書館がショッピングモールの中に入っており、児童書の新刊図書が多いと聞いた。箕面市の図書館は、新刊図書がもう少し増えたらよいと思った。また、本の予約について、スマートフォンから入力しづらかった。もう少し入力しやすくするため、アプリのような形式にすることはできるか。パソコンからは入力しやすいが、スマホからは入力が難しいため、改良してほしいと思った。

事務局： アプリはないが、検索については、PC用とスマホ用の二種類の画面がある。スマホから入力される際は、スマホ用の画面から入力されると、スムーズに入力できると思う。

会 長： ショッピングモール内に図書館を作ることは箕面市では難しいと思うが、新刊図書が少ないという意見があった。市民ニーズに応じた購入や選書はどのような状況か。

事務局： 新刊図書は毎週納品されている。児童書も、主要な出版社の本は比較的早く納入されているが、すぐに借りられてしまうので、棚に並んでいない状況である。茨木市の図書館では確かに新作で人気のある本が棚に並んでいる印象を受ける。

会 長： 箕面市の方がよく借りられているということか。

事務局： 借りられている冊数は、市民一人あたりにすると茨木市と箕面市は同じぐらいだが、人口規模も予算規模も異なる。

会 長： 新刊図書すべてを購入することはできないため、バランスを考えながらの選書、購入が必要であることをご理解いただきたい。

委 員： 私たちは対面朗読、録音その他で図書館に大変お世話になっている。新型コロナウイルス感染症が拡大した後は、それまではできていたことができなくなり、後退してしまったことが図書館にもあると思うが、対面朗読も完全にストップした時、ZOOMにより実施した時、対面での朗読に戻った時と、様々な形があった。ZOOMも含めて、昨年度は約140回対面朗読をした。イベントなど計画するときは1年以上前からオファーをかけるなどしていると思うので、コロナ禍でこれだけいろいろな行事を計画しているということは、大変な努力をされていると感じる。幅広い世代向けの様々な催し物をされており、ありがたい。今後はもう少し楽に開催できると思う。西南図書館では、居場所づくりで参加している子どもの数も増えてきている。イベントも開催しており、必要な場所として通っている親御さんも多い。

副会長： 最近図書館から足が遠ざかっているが、色々なイベントを行っていることと、西南図書館は会議等を行うことがあるので時々行くが、図書館の雰囲気や2階の掲示にも変化を感じる。自分自身も「夢トーク」と「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」以外のイベントを知らなかったため、広報の必要性を感じた。私たちは「人と本を紡ぐ会」として、紙芝居関係のイベントや、夏には「紙芝居まつり」もしていて、広報の難しさを感じている。私自身も西南小学校の校区で青少年関係のイベントもしていて、毎月1回「ジャグリングで遊ぼう」というイベントを体育館で開催している。チラシを子どもの手元に届けるために、開催する地域の学校に配布してもらっており、イベント実施する側としても広報の難しさがわかる。子どもが自分でできるイベントを企画しても、子どもや大人たちに届かないこともあるので、企画側としても考えていく必要があることを、みなさんの意見を伺って感じた。

会 長： 各委員からご指摘があった通り、箕面市の図書館は様々なイベントに取り組んでおり、高く評価したい。イベントの多様性を見る限り大阪大学との連携もうまくいっていると思う。また、図書館として、様々な課題を抱えている子どもたちに少しでも対応すべく、子どもの居場所づくりを図書館として実施することについても、とても評価できる。子どもの居場所づくりは、具体的にどのようなことをしているのか。ただ部屋を開放しているだけか。そこに行けば大学生のお兄さんやお姉さんがいて安心できる環境があるのか。

事務局： 西南図書館は場所の開放で、親子でおもちゃを使って遊ぶことができ、夏休みには自主的に宿題をしている子どもも多い。会話をしてもよいことにしており、過ごし方は自由な部屋にしている。

事務局： 子どもの居場所事業は、箕面市では西南図書館と東図書館で取り組んでいる。

東図書館の事業は「うきうきひろばの会」がしており、第二、第四土曜日と長期休暇で年間約40回実施している。実施時間は、10時から17時までで必ず2名が常駐していて、紙芝居の実演や、折り紙を教えたりしている。

事務局： 図書館の、居場所づくりは緩やかな見守りという状況である。西南図書館の二階のエリアの管理運営を委託している「MerryTime」という団体は、子育て支援の活動を行っている団体で、図書館の取り組みではないが、家では宿題をしにくい子ども向けに場所を開放して、学習のサポート的なことをする会員制の取り組みも始めている。

会 長： 大変素晴らしい取り組みであり、先程委員から提案があった参加型のイベントと合わせると、新たな展開が生まれるのではないかと思う。

日程第2（案件第2号）

令和4年度事業概要について

事務局より令和5年度版「箕面市立図書館概要」に沿って令和4年度の事業概要について説明。

会 長： 予算自体もコロナ禍以前に戻り、有効登録利用者数も年々増えてきている。図書館の活動が市民に評価されていることが反映されている数値だと思う。蔵書については、予算の関係上蔵書を増やすことは難しいが、イベント等を開催することにより図書館の利用が増え、登録者数も増えていくことが予想されるため、今後も継続してご尽力いただきたい。

日程第3（案件第3号）

その他

事務局： 次回の箕面市立図書館協議会は令和6年2月または3月の開催を検討している。

会 長： その他になれば、本日の図書館協議会を終了とする。